

奥羽大学報



第2講義棟

目次

奥羽大学の理念・目的／	
薬学部井上忠夫教授が日本癌治療学会学術集会で優秀演題賞／	
歯学部眞島いづみ助教が加藤記念バイオサイエンス振興財団から助成・・・	2
薬害についての講演会／老健施設を訪問／「B型肝炎接種事故」セミナー／	
第1回福島県医療福祉関連教育施設協議会・教員研修会	3
大学院特別研修セミナー／奥羽大学歯学会／無垢サロン	4
職業研究セミナー、123事業所が協力／キャンパスの風景	6
附属病院	7
第26回福島県内大学図書館連絡協議会実務者研修会／	
「薬剤師蒲生明の生涯」が『薬学図書館』に連載／自著を語る	8
歯学部研究紹介	9
薬学部研究紹介	10
同窓生だより／同窓生のひろば	11
人事	12
個別見学会	13

奥羽大学の理念・目的

理念

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する。

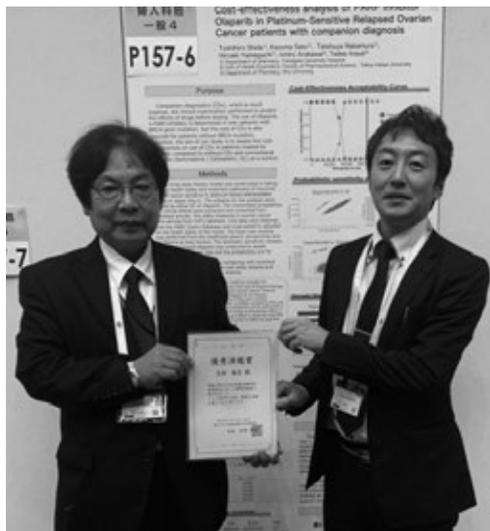
目的

奥羽大学は、教育基本法（昭和22年法律第25号）並びに学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、広く知識を養うと共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を育成し、国民の福祉と文化の発展に寄与することとし各学部はその目的は、次の各号のとおりとする。

1. 歯学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成する
2. 薬学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成する

薬学部井上忠夫教授が日本癌治療学会学術集会で優秀演題賞

薬学部薬理学分野がん薬物治療学の井上忠夫教授研究グループが、10月24日(木)～26日(土)に開催された第57回日本癌治療学会学術集会で優秀演題賞を受賞した。受賞した演題は、“Cost-effectiveness analysis of PARP inhibitor olaparib in Platinum-Sensitive Relapsed Ovarian Cancer patients with companion diagnosis.”でコンパニオン診断の臨床的エビデンスと経済的エビデンスを統合した治療方法を解析し、個々の患者の最適な治療戦略（Precision Medicine）を決定する研究である。



左が井上忠夫教授

歯学部の眞島いづみ助教が加藤記念バイオサイエンス振興財団から助成

歯学部口腔病態解析制御学講座口腔感染免疫学分野の眞島いづみ助教が、公益財団法人加藤記念バイオサイエンス振興財団の第31回（2019年度）研究助成を「遺伝子編集技術を用いた抗う蝕菌の開発」という研究課題で受けることが決定した。

この研究助成は独創的かつ先駆的研究をめざす若手研究者に対して行われるもので、我が国の医学系研究の第一人者の多くが、若手の時にこの助成を受けている。眞島助教は来る3月6日(金)、東京の如水会館で行われる贈呈式に出席する。

薬害についての講演会

10月21日(月)、第1学年を対象とした、「薬害」についての歯・薬合同セミナーが実施された。講演会では、公益財団法人いしずえ サリドマイド福祉センター常任理事の増山ゆかり氏が、「サリドマイド薬害の原因や薬害患者の現状など」について、詳細に説明された。講演会后、SGD（スモール・グループ・ディスカッション）が実施され、「薬害はなぜ起こるのか」「薬害を防ぐために臨床現場に求められることは何か」などについて質問があり、薬害について考える良い機会となった。



老健施設を訪問

薬学部1年生は11月18日(月)と25日(月)の2日間にわたり、早期体験学習の一環として老健施設等を訪問した。今回は郡山市内並びに本宮市内の6施設にご協力をいただいた。参加した学生らは、介護老人保健施設等で活躍するさまざまな医療職の働く姿を見て、生命倫理の大切さ、施設におけるチーム医療と地域の福祉施設の重要性について十分に認識することができたようだ。また、少子高齢化社会での薬剤師の役割についても考える良い機会になった。

「B型肝炎接種事故」セミナー

11月11日(月)、第1学年を対象とした、「B型肝炎接種事故」についての歯・薬合同セミナーが実施された。講演会では、全国B型肝炎原告団・弁護団の小淵真理子先生とB型肝炎接種事故被害者を招き、「B型接種事故の原因や事故被害者の現状など」について、詳細な説明があった。講演後、SGDが実施され、「B型肝炎患者の心の痛みを緩和するために、医療チームが考えるべきことは何か」などについて質問があり、この事故について理解を深めた。

第1回福島県医療福祉関連教育施設協議会・教員研修会

多職種連携に関する県内初の研修会が12月21日(土)、星総合病院のポラリス保健看護学院で大学や各種医療専門学校など県内10の施設、約30名の医療人が参加して開かれた。本会の目的は「医療福祉教育を担う教員が医学教育の動向を知り、医療人育成の一環として多職種連携教育の在り方について考えること」である。医学教育の動向全般について、福島県立医大の医療人育成・支援センター長で医師の大谷晃司先生の講演があり、医療教育現場からも医療コミュニケーション教育や多職種連携の実際の講演などがあった。その中で学生が楽しく学び、学習効果も上がる、工夫されたアクティブ・ラーニングなど、すぐにでも実践できる内容のものもあり有意義であった。本協議会では、本年度7、8月に多職種連携のネクスト・ホープ研修会を主催しているが、今後、この研修会の質の向上にも役立つものと思われる。



早坂正孝副会長(薬学部教授)のあいさつ

大学院特別研修セミナー

令和元年度第2回大学院特別研修セミナーが11月1日(金)、第3講義棟332教室で開催された。講師は羽田貴史東北大学名誉教授で、「研究倫理の現状とその課題」と題して、研究倫理に関する最新の考え方や何が問題となっているかについて事例も交えて詳しい説明があった。研究倫理・研究不正防止を推進する上で、有意義な講演会となった。

当日は、歯学部と薬学部の教員、大学院生の計124名が参加した。

奥羽大学歯学会

第68回奥羽大学歯学会が11月9日(土)、附属病院棟5階臨床講義室で開催された。学位口演9題を含む25演題の発表があった。いずれの演題に対しても活発な質疑応答が行われた。また、東京医科歯科大学大学院豊福明教授による『取れない歯痛、合わない咬合への対処法-なぜ、今、歯科で「心身医学」なのか?-』と題する特別講演が行われた。



情報メディアの今昔

図書館長 安藤 勝

今は昔。古い話で、お許しをいただこう。今のうちに記しておかないと忘れてしまいそうだから。幼少のころ、といっても昭和20年代のこと。情報メディアといえばラジオか新聞・雑誌が代表的なものだった。そのラジオも時々雑音が入ったり、聞こえなくなったりで、そうしたときはラジオの頭をたたくと直ったりした。戦時中このラジオは空襲警報の放送で大活躍した。空襲警報といっても若い人には分からないだろう。放送番組の途中でもブーという警報に続いて、「東部軍管区情報、敵機来襲、敵機来襲、敵機5機長野方面に飛来中・・・」という具合の臨時情報が入り、敵(アメリカ軍)の飛来情報が伝えられた。

危険が迫ってくると電気を消して、防空頭巾を被り、家族みんなで、庭先に掘った防空壕に飛び込んだ。今の若い人には想像もできないだろう。そうした時代を語る人も少なくなった。戦前戦後の混乱時代を語る語り部が必要といえそうだ。

終戦のとき、私は小学校2年生(当時は国民学校と称していた)だった。長野市から疎開先である郊外の松代小学校講堂で、終戦の玉音放送を聞いた。玉音放送ってなに?そうか、その説明が必要だ。天皇による終戦を宣言する放送のことだ。

聞いたというよりもラジオから何かの音が雑音に混じって聞こえてくる程度だった。大人たちが真剣に聞き入っている姿に異様なものを感じた。泣いている人もおり、いつもとは違う雰囲気があった。戦争が終わったということ子どもなりに直観した。

ついでに言うと、疎開していたこの松代には巨大な地下壕が極秘裏に作られていた。天皇陛下をはじめ、日本の中枢機関である政府機関や報道機関などが移動してくる予定だったのだ。いわば天皇制を死守するための砦だった。地域住民はそのことを知らされていなかった。作業者の7割は朝鮮人だったことも。社会人になって新たにここを訪れ、事の重大さを知って驚いた。今日、この戦争遺跡は観光スポットになっており、地下壕の一部は気象庁の地震観測所として活用されている。物言わぬ証人である。

▼戦争が終わってから、小学の何年生だったかは憶えていない。自分で鉱石ラジオ作ったことがある。近所のお兄ちゃんに教えてもらって、配線にはんだ付けをしたりした。手の平にのるくらいの小さなラジオから音が流れたときは、飛び上がって喜んだものだ。

テレビを初めて見たのは1949年(昭和24)、長野市の城山公園で開かれた「平和博覧会」

の時だった。私は小学6年生だった。もちろん、白黒画面だった。テレビの前は黒山の人だかりだった。この博覧会の一番の話題はおそらくこのテレビだっただろう。何しろ、何かが箱の中で動いて、音を出している。みなこぞって作文には「平和博覧会でテレビを見ました」と書いた。小学生ながらもカルチャーショックは大きかった。

あらためて年表を見ると、NHK テレビ放送の開始は1953年（昭和28）となっている。

このころの一番の話題は皇太子（現在の上皇陛下）ご成婚の実況放送だった。誰も彼もがテレビのある家に押しかけた。私は街の「食堂」で見せてもらった。

カラーテレビの本放送が始まったのは1960年（昭和35年）。プロレスラー力道山の血が画面一杯に写し出された。興奮のあまり、ショックで死んだ人もいたという。

▼個人的な仕事のことで恐縮だが、図書館に勤務するようになった私は『英米文学研究文献要覧』なる書誌を45年間にわたって作成した。これは昭和20年からわが国で発表された雑誌論文、図書、図書に含まれる英米文学関係論文の書誌データを網羅的に収集して、分析と編集を加えた、いわゆるアナログ時代のデータベースである。

最初の刊行が1977年3月、最終が2011年3月、計8分冊、印刷ページで6,523頁、収録文献数143,600。個々の文献の書誌データは総て手書きでカードに記載した。

データの採集には原文献に当ることを原則とした。国立国会図書館を始め、早稲田大学図書館ほか多くの図書館を利用させてもらった。大げさに言えば、私の青春のエネルギーの多くはこれらの作業に費やされた。もちろん、これらは本務以外の仕事だったから昼休みは貴重な作業時間だった。

今日、学術論文作成には必ず何らかのデータベースを使って先行文献を検索する。これらの

データベースは人間の手で作られたものだ。文献探しが容易になるということは、ツール作成の作業が必ず潜んでいるということだ。書誌は生き物であり、時代を写す鏡である。書誌は新しい情報の産出を促すメディアでもある。こうした手作り書誌は昭和の産物となった。

▼今やSNSの時代である。指導者のツイッターひとつで、世の中が変わる時代だ。SNSという現代の妖怪が暴れている。ある脳学者は言う「スマホ操作中の脳の血流量は論理的な思考を行うに必要な前頭前野が眠っているような状態になっている」と。言葉が記号化されるということは、言葉の劣化が進んでいるというのだ。ネットコミュニケーションの裏側が恐ろしい。あらためてメディアの威力とその影響に戸惑いを感じる。

かつて大宅壮一という評論家がテレビは一億総白痴になるという有名な言葉を残したが、今やSNSの時代。活字離れが加速化している。書店の廃業がすすんでいる。大学生の半数以上は本を読まない。「豊かな人間性」というキャッチフレーズが空回りしているように思えてならない。読書は物語性が重要である。ゲーテンベルグの銀河系という言葉も遠のいた。メディアは人間観を変えてしまうのだろうか。従来の理性や感性は次第に遠のいていく。人間疎外・・・昔、盛んに使ったことばを思い出してしまう。

紙はページをめくることに想像力が働く。アナログのいいところだ。紙は人間回帰への道につながるという見方もある。しかし、それはもはや少数派であろう。

やがてAIの時代がやってくる。新しい文化が生まれ、新しい人間観が誕生してくるだろう。手のひらにのる小さな利器が時代を開いていく。若者たちがその鍵を握っている。

職業研究セミナー、123事業所が協力

薬学部5年生を対象とした職業研究セミナーが、11月21日(木)・22日(金)の2日間開催された。

このセミナーは人事担当者や第一線の現場で働く薬剤師から事業所の理念、目指す方向性、社会貢献等について直接話を聞いて自身の職業観を育成することを目的としている。

今年も多数の本学薬学部卒業生が事業所の担当者として参加し、後輩にアドバイスをしていた。また、本学就職委員の教員との久々の再会に話を弾ませていた。

本年度は、病院、保険薬局、製造業、ドラッグストア、公務員など123事業所の協力を得て無事終了した。



キャンパスの 風景

切り株

本学のキャンパスには数多の切り株がある。とくに薬学部棟裏に集中しており、筆者の推定では200株はある。

本学創設のころから勤務された職員の話によると、仕事中に樹を切り倒す仕事をしたという。多分、本学開設のころ、多くの樹木が伐採されたことであろう。

本学創立10周年の記念誌(『創立十周年記念誌』東北歯科大学)や『奥羽大学三十年誌』掲載の航空写真を見ても、鬱蒼とした森林と田畑の中に校舎がある、といった感じである。

切り株は樹木を切ったあとの根株のことで根っ子とも言うが、年輪を示す同心円状の周期性が我々に何かを語ってくれる。

木は本の元である。本意、本家、本屋、本会、本気、本音、本会議、本学、本格、本給、・・・いくらでも本の付く字を見つけることはできるが、いずれも物事の基本を示している。とくに本家本元の「本」は知識吸収の基本となるツールである。そうだ、切り株に腰かけて本を読んでみようか。太古の木の霊が体を透して何かを語りかけてくれるかもしれない、という幻想を描きながら。(A)



薬学部棟裏



動物実験研究棟手前

附属病院

臨床教育セミナー特別講演会

臨床教育セミナー特別講演会が2回にわたり開催された。

10月31日(木)は歯学部同窓会より第14期生葛山賢司氏を講師に、「研修歯科医の君たちに伝えたいこと」と題した講演が行われた。

11月28日(木)には福島県歯科医師会から工藤祐光常務理事を講師に迎え、「災害時の歯科保健医療体制の現状」についての講演が開かれた。

両講演会とも研修歯科医、病院教員を中心に多くの関係者が聴講され、有意義なセミナーであった。



医療事故防止のための相互チェック

12月25日(木)、当院において全国歯学系大学の30病院(東京歯科大学は2病院)間で自主的に行われている国・公・私立大学歯学部附属病院「医療事故防止のための相互チェック」が、北海道大学病院(チェック責任校)と大阪歯科大学附属病院が担当して実施された。聞き取り調査後の院内の視察が行われ、臨床実習生が一人ひとり挨拶をするなど、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)が厳守されていて、皆が一丸となっている病院であるとの評価を受けた。



歯科医師臨床研修指導歯科医講習会

第14回歯科医師臨床研修指導歯科医講習会が病院棟5F臨床講義室を主会場に、11月30日(土)、12月1日(日)の両日、16時間にわたって開催された。本学歯学部教員4名と学外の歯科医師20名が参加した。スーパーバイザーの日本歯科大学附属病院の横澤茂准教授とチーフタスクフォースの本学清野晃孝准教授が主導した。特別講師として、関東信越厚生局健康福祉部医事課臨床研修審査官の藤本暁江氏を迎えた。直近の臨床研修の問題点と対応策を練ることと臨床研修のカリキュラムプランニングをプロダクトとして作成、発表するなど、有意義な講習会であった。



第26回福島県内大学図書館 連絡協議会実務者研修会

福島県内大学図書館連絡協議会では、職員の研究・交流を図るため、毎年実務者研修会を開催している。今年度は郡山地区の本学及び郡山女子大学、日本大学工学部が担当校となり、11月26日(火)に本学第3講義棟で開催された。

テーマは図書館の目録作成に関係する「CAT2020について」で講師を含む13機関20名が参加した。



「薬剤師蒲生明の生涯」が 『薬学図書館』に連載

「日記が語る薬剤師蒲生明の生涯」は、学術雑誌『薬学図書館』(vol.64, No.1-4)に4回にわたり連載され、このほど完結した。筆者は安藤勝図書館長。本学図書館には蒲生明が独学で学んだ図書などを集めた「蒲生明文庫」がある。14歳(明治43年)から74歳(昭和45年)の亡くなるその日の分までを書き綴った全59冊の日記も保管されており、明治、大正、昭和にわたる貴重な史料となっている。

安藤館長は蒲生明の活動地域であった田村市滝根町の現地調査をふまえ、膨大な日記を解読、豊富な写真とともに薬剤師蒲生明の人物を克明に描いた。内容は第1回「独学で薬剤師試験に挑戦」、第2回「国試挑戦9回、宿願の薬局開設」、第3回「鍾乳洞発見と牧野富太郎と文化人との交流」、第4回「薬の開発と民俗研究—在野の科学者として」より成っている。

自著を語る

『カラーグラフィック 薬用植物』第4版 廣川書店 2016.3

『パートナー生薬学』改訂第3版増補 南江堂 2018.2

『歯科漢方医学』第1版 永末書店 2018.4

漢方薬の見直し機運が高まっている。数千年にわたりヒトでの効果を検証することで選ばれてきたクスリであるため、副作用が極めて少ないものが多く、病気になる前の「未病」の状態でも服用できるなど現代医薬にはない利点も持っている。有効性の本体は不明なことが多いが、かつてなかった花粉症にさえ漢方薬が効くなど、秘めた力を持っている。

漢方薬は植物から作られる。植物のどの部位からどのような生薬が生まれ、どのような品質の生薬が漢方薬の原料になっているのかを知るのには薬剤師にとって大変重要なことである。歯科診療でも、口腔乾燥症に白虎加人参湯が用いられるなど、今後は漢方薬に関する知識習得が欠かせなくなるであろう。私が共著者として参加した三冊は、薬用植物→生薬→漢方薬→歯科漢方を有機的に学ぶには好適の教科書である。

(薬学部 生薬学研究室 教授 伊藤徳家)



歯学部研究紹介

非電解性機能水による歯科用器材の消毒に及ぼす塩素濃度の影響

生体材料学講座 准教授 石田 喜紀

院内での感染防止のため、各種歯科診療用器材の滅菌・消毒は日常の歯科臨床において欠かすことのできないものであり、非常に重要です。現在歯科臨床ではミラーなどの耐熱性の器材はオートクレーブ（高圧蒸気滅菌）による滅菌が広く行われています。しかしながら、滅菌法によっては器材の腐食などが懸念されます。

これまで様々な電解機能水の生成装置が開発され、機能水による滅菌・消毒が普及しつつあります。近年、非電解性機能水が開発され、消臭や滅菌に効果があるとされています。非電解性機能水生成装置（ラディクトル社製）（図1）はこれまで非常に危険であった次亜塩素酸ナトリウムと酸の混合を特殊な技法によって行い、pH6.0～6.8で塩素濃度30～400ppmの水を生成することに成功しました。この非電解性機能水は、次亜塩素酸ナトリウム水溶液より短時間で高い殺菌効果が得られ、ウイルスに対しても不活化効果があるとされています。

そこで我々は非電解性機能水を滅菌に用いた場合の歯科用器材に対する影響を、表面粗さの測定などにより高圧蒸気滅菌と比較し、また塩素濃度の影響も比較した結果、図2、3に示されるように器材への影響に差がないことが示唆されました。

今後はエアタービンなどの複雑な装置への殺菌の影響を明らかにすることで歯科臨床への応用が期待されています。



図1 非電解性機能水生成装置
カンファミキシノーヴァ AP-1
(ラディクトル)

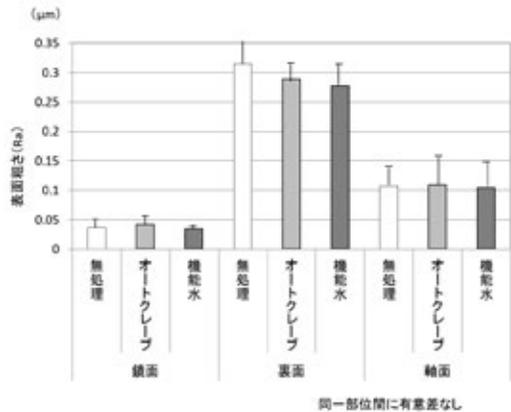


図2 滅菌法の違いによる各部位の表面粗さ (Ra)

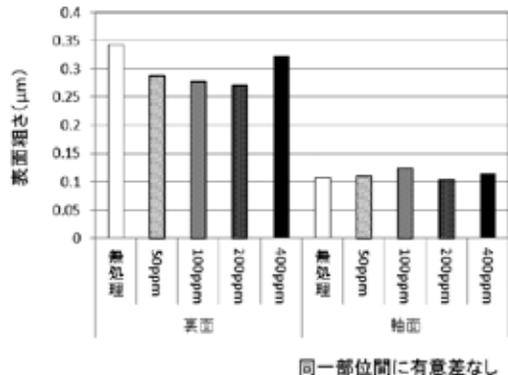


図3 非電解機能水の塩素濃度による表面粗さ (Ra)

薬学部研究紹介

化学物質の皮膚透過と安全性

医療薬学分野 講師 杉野 雅浩

皮膚に塗布する薬物や機能性化粧品があるように、ある種類の化学物質は皮膚に浸透・透過することが分かっています。これら化学物質は、皮膚に対して有用な効果をもたらすものだけでなく、有害な作用を引き起こしてしまうものもあります。普段我々が日常生活の中で使用する化学物質や、接触が避けられない化学物質がどの程度皮膚に浸透してしまう可能性があるか評価したので、ここで紹介します。

皮膚の生理機能の一つに皮膚のターンオーバーがありますが、この時、垢として落ちる角層（落屑）は、かつては表皮深部にあり、細胞分裂を繰り返すうちに最外層まで押し上げられ、その過程で役目を終えた細胞です。すなわちターンオーバーの速度（落屑速度）は、わずかではありますが化学物質の皮膚内部への浸透に対する抵抗力となっています。また、化学物質に対する皮膚のバリア能は主に角層が担っていますが、脂溶性の高い一部の化学物質は、角層より内部に存在する表皮や真皮もバリアとして働くことが知られています。まず、防虫剤や殺虫剤等に使用されている3種類の化学物質の皮膚透過速度と落屑速度と比較することで、化学物質が体内へ吸収される可能性があるか検討しました。すると、化学物質のレスメトリンは皮膚表面にとどまり、ダイアジノンとパラクレゾールは皮膚内部に浸透、パラクレゾールは皮膚から全身へ吸収されることが分かりました（図1）。これらの結果は物理化学的性質によって説明できたため、化学物質の安全性を考える上で重要なデータとなります。

次に、可塑剤としてあらゆるプラスチック製品に含有されるフタル酸ジエステル類の評価を行いました。フタル酸ジエステルは脂溶性が高く皮膚を透過しませんが、分解物であるフタル酸モノエステルが皮膚透過することも分かりました（図2）。さらに、この分解物の皮膚透過は、皮膚代謝能の測定によって推定可能であることを見出すことができました。化学物質の皮膚曝露後の安全性を考える際は、代謝物も考慮しないと正しい評価ができないことが分かりました。

今後はあらゆる化学物質の物理化学的性質や構造などの既存の情報から、皮膚曝露後の安全性を確保できるようなシステム作りを行い、新規化学物質の安全性評価方法の開発に寄与したいと思っています。

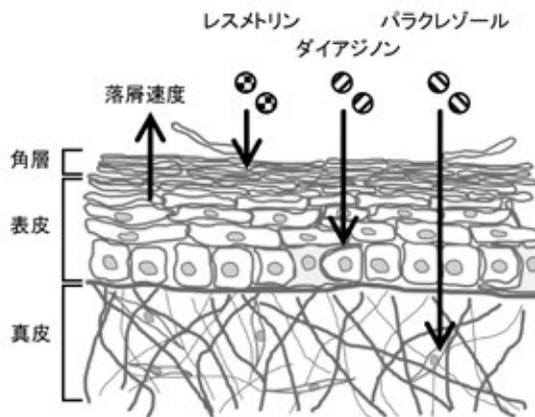


図1. 化学物質の皮膚浸透・透過の模式図

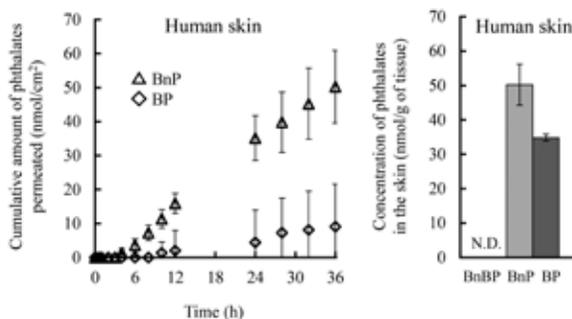


図2. 皮膚内部で代謝される化学物質の皮膚透過性

同窓生だより

狩野 敦史(岩手県支部 歯学部6期生)

皆さんこんにちは、歯学部岩手県支部の狩野敦史です。岩手県支部について紹介させていただきます。現在の会員は1期生から33期生まで52名です。ほとんどが開業医とその奥様です。最近では会員のご子弟で新入会されるkai先生も見られます。地元の岩手医科大学の勤務医や大学院生につきましても、同窓会会員と判明するたびにお声がけをして支部への入会をお誘いしております。

支部の事業としては総会と、学術講演会、新年会などです。学術講演会は総会や新年会とセットのことが多く、2019年2月2日に講師に奥羽大学インプラント講座の関根秀志教授をお招きしホテルメトロポリタン盛岡 ニューウイングで開催され、「社会の変化に対応するインプラント治療を考える」との演題でご講演をいただきました。

新年会を兼ねた懇親会では、前年度学校安全文部科学大臣表彰を授与された狩野裕史、三浦幹也両先生も参加され、皆様から大いに祝福されました。「お祝いごとは皆んなで喜び、苦しい時は皆んなで助け合う」が当会の大原則です。また、関根先生より現在の大学の状況などのお話があり、学生時代の懐かしい思い出がよみがえり楽しい時間を過ごしました。

社会情勢が大きく変化するなか、歯科医師のあり方も大きく変化する時期であり優良な情報提供が必要であります。同窓会支部の活動が会員の一助となれば幸いです。また、4月20日には2019年度総会が開催され、前年度に新規開業された若い先生が新入会員として紹介されました久しぶりに参加された1期生の先生もおられ、参加の皆様より大歓迎されておりました。年々参加人数が減少しており、若い先生の参加し易い事業の展開が急務となっています。さらに本年度は県内に勤務する同窓会会員の先生で未登録の先生の調査に力を入れたいと考えております。

元号も新たに令和となり、岩手県支部も結束を新たに会員の親睦を進め、相互扶助の精神で支え合って行こうと思っています。今後とも皆様のご指導をよろしくお願いします。

同窓生のひろば



武内 格(文学部8期生)

こんな事を言うと卒業生や大学関係者に叱られるかもしれませんが、大学で学んだことが今の生活や仕事に活かされているかと聞かれたら、胸を張って「ハイ」とは答えられません。

誤解しないで頂きたいのは、それは私自身の意識や努力の低度からなるもので、何ら大学の所為でない事は付け加えておきます。20年前、超就職氷河期と呼ばれる時代に歯学部でも薬学部でもなく、今は無き文学部を卒業し、企業に就職する事はありませんでした。卒業さえも教授にお願いするほどの学生でしたので、決して褒められる大学生でなかった事は想像の通りです。

今、大学時代を振り返ってただ一つ言える事は、大学の友人に勧められたイベント関係のアルバイトをはじめた事が、今の仕事の原点であると言うことです。アルバイトで携わったイベント業界に興味を持ち、大学卒業後は契約社員として博覧会のキャンペーンの仕事をする事になり、そこで得た経験や出会った人たちとの繋がりによって、イベント・マスコミ業界で仕事をするようになりました。

現在はフリーアナウンサーとしてラジオのパーソナリティーやイベント司会、CM等のナレーションなど「声の仕事」を生業としております。今でも大学時代のアルバイトで出会ったイベント・マスコミ業界の方々との交流もあり、また同窓生とも仕事で会う機会もあり、「出会い」こそが大学時代の財産であり、今の仕事の根底にあるものだと思っています。大学という場所は学業やサークル活動だけでなく様々な出会いがあります。出会いは、人生を変えるキッカケにもなります。出会いは、人生を豊かにするチャンスにもなります。今までの出会い、これからの出会いを大切にし、福島の今を伝えるアンカーとして、これからも地元福島のために精進して参りたいと思います。

卒業から20年、今回このような機会を頂きまして感謝いたします。これも一つの「出会い」と思い執筆した次第です。ほんの少しでも母校への恩返しになれば幸いです。



齋藤 薫子(歯学部10期生)
昭和62年に卒業以来、アツ
と言う間の32年が経ってしま
いました。

高知県の同窓会は総勢13名
のこじんまりとした会です。今
までは不定期にイベントなどに
合わせて同窓会を開催していましたが、今年9月に
開かれた会で毎年定期的を開催する事が決まり、
大変喜んでいるところです。しばらく新しい同窓生
をお迎え出来ていませんが、現在のメンバーで今後
も同窓生同士親睦を深めて行きたいと思っております。

私自身では、卒業直後は矯正学教室で山口教授
の下、梅村医局長、氷室助教授、福井先生、板橋
先生に大変お世話になりました。当時、医局には
池尻(狩野)先生と私しか女性がおらず、ひたすら
池尻先生の後をついて回っていた事が懐かしく思
い出されます。更に医局での研修の傍ら学生時代
所属していた硬式庭球部の先輩である佐藤賢次郎
先生の医院でも勉強をさせていただきました。大学の
キャンパスや教室の思い出と共に三春町を抜けて
船引町に至る通勤路はいまだに忘れられない光景
の一コマです。

その後は祖父が開業し、母が後を継いでいた実
家の診療所に帰り、母と二人で、と言うか母の足を
引っ張りながら何とか診療していましたが、その母
が亡くなって10年になります。恥ずかしながら私
の歯科医師人生の最高の師範は母でした。その母
が闘病たった100日で他界してしまい親子としての
母親を亡くした事に加え、仕事の師匠をも同時に失
う事となり、しばらくは茫然としておりました。け
れども、そんな私を救ってくれたのは娘たちと診療
でした。間違いなく減点ママな自分ですが娘たち
と過ごす時間に癒され、母が残してくれた診療所と
患者さんに助けられ今があります。自院以外では

9年間の常任部員の後に高知県歯科医師会初の女
性理事の推薦を受け、地域保健と広報のお手伝い
をさせていただきました。現在は発足やっつと7年目の高
知県女性歯科医師の会(やまもも会)の世話人と
女性活躍WLB(Work Life Balance)委員会の委
員長として県内の女性の先生方と歯科医師会のパ
イプ役を担わせて頂いています。目の前に与えら
れた仕事に夢中で取り組んで来ました。その原動
力の源は、いつの時も、大学での6年間、医局で
の2年間でした。この原稿のご依頼を頂き、これ
からも母校への誇りを胸に益々頑張っ行ってこうと思
いを新たに致しました。今後とも末永くご指導の程、
お願い致します。

人 事

<退職>

堀 口 重 子 歯科衛生士 病院医療部 10月31日付

<定年>

押 尾 茂 教 授 薬 学 部 2月20日付

<再任用>

押 尾 茂 教 授 薬 学 部 2月21日付

一念、岩をも徹す^{どお}

(故事)

全力を尽くして事にあたれば、どんなこと
でもできるというたとえ

奥羽大学報164号(通算No.289)令和2年2月28日発行
発 行 奥 羽 大 学
学 報 編 集 委 員 会
委 員 長 清 野 和 夫

☎963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
電話 024(932)8931(代) FAX 024(933)7372
ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>
メールアドレス info@ohu-u.ac.jp

※「奥羽大学報」送付先変更の方は、FAXまたはメールでご一報をお願いします。

個別見学会

個別見学のメリット

オリジナルの見学プログラム

専門スタッフが参加者の希望にあった見学プログラムをコーディネートします



好きなだけ聴講

平常授業日の場合は、希望の講義・実験・実習を好きなだけ聴講できます



在学生との交流

実際に本学で学ぶ在学生に、学習面や生活面などの実体験を聞くことができます



同伴自由

保護者、友人、知人など、同伴参加が可能です



入試の疑問や大学生活の不安まとめて解消

国家試験は？奨学金は？ Etc... 知りたいことにお応えします

お申込み方法

- 本学へお電話予約** 日 時 / 月曜日～金曜日の9:00～17:00の間 (土日・祝祭日を除く)
- 日時決定** 対 象 / どなたでも可
- 当日来学** 申込み / 事前に企画・広報課までご連絡ください
- 見学プラン決定** 歯学部 TEL:024-932-9905・9055 (直通)
薬学部 TEL:024-932-8995・9006 (直通)
E-mail: info@ohu-u.ac.jp

よくあるご質問

- Q 見学の時間はどれくらいかかりますか？
A 通常1時間～3時間程度でご案内することが多いです。
- Q 服装は自由ですか？
A はい、在学中の方は制服でも、もちろん私服でも大丈夫です。
- Q 自家用車で来学できますか？
A はい、学内に無料で駐車できます。
- Q 学食体験のメニューは選べますか？
A はい、好きなメニューを選べます。

保護者個別見学 保護者のみでの見学も歓迎しております

将来受験してみたい中学生、小学生の早期見学も可能です ※要保護者同伴

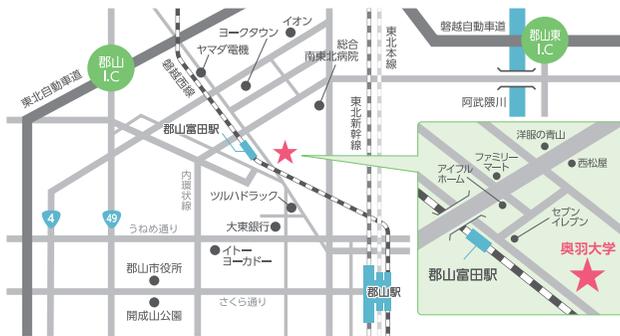


自力進学支援型
特待生募集!
歯学部 **30名** 薬学部 **30名**

..... 特待生制度 学費サポート

区分	特待生		一般入学生	
	1年次	2年次以降の金額	1年次	2年次以降の金額
歯学部	入学金 500,000円 授業料 0円	3,500,000円	入学金 200,000円 授業料 0円	1,500,000円
薬学部	入学金 200,000円 授業料 0円	1,500,000円	入学金 200,000円 授業料 0円	1,500,000円
6年間の総額	500,000円	21,500,000円	200,000円	9,200,000円

※教科書、実習器材等は別途費用がかかります。



奥羽大学へのアクセス

- 福島交通バス**
JR郡山駅より約10分
- JR磐越西線 郡山富田駅**
西口より徒歩3分(平成29年春新設)
- お車でお越しの方**
●郡山ICより約15分
●郡山東ICより約15分
- 新幹線利用**

 - 盛岡 — 83分 (仙台駅乗換え時間を含む)
 - 山形 — 81分
 - 仙台 — 35分
 - 宇都宮 — 27分
 - 大宮 — 51分
 - 東京 — 77分
- 飛行機利用**

 - 札幌 — 80分
 - 大阪 — 65分



奥羽大学
歯学部 | 薬学部

奥羽大学 東北歯科専門学校
歯科衛生士科 | 歯科技工士科

奥羽大学 検索 www.ohu-u.ac.jp

個別見学会



聞いてよかった!
見て安心した!

ご家族同行でも!
ご両親だけでも!

個別見学プログラム事例

お一人おひとりのご希望にそって、専門スタッフが見学・相談のプランをコーディネートいたします。



母親と2人で来学



個別進学相談 (入試情報・教育内容など)



授業見学・講義/実習



進学相談 (学校生活・奨学金など)



学食体験



施設見学

来学から約3時間程度で終了・ご帰宅



奥羽大学

歯学部 | 薬学部

奥羽大学 東北歯科専門学校

歯科衛生士科

歯科技工士科

奥羽大学

検索

www.ohu-u.ac.jp

TEL 024-932-9055

(お問い合わせ先 企画・広報課) 〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1 FAX:024-933-7372 E-mail:info@ohu-u.ac.jp